

本資料及び資料に含まれる第三者著作物を再使用する場合、
利用者は、それぞれの著作権者より使用許諾を得なくてはなりません。

金子資料 /

日本の高齢社会と高齢者

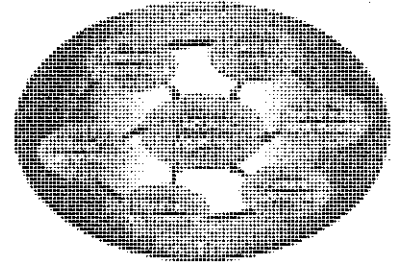
北海道大学大学院文学研究科特任教授

金子勇

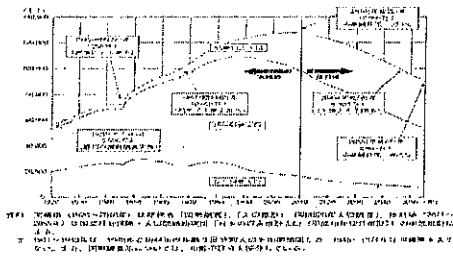
少子化する高齢社会関連書

金子勇,1993,『都市高齢社会と地域福祉』ミネルヴァ書房。
金子勇,1995,『高齢社会-何がどう変わるか』講談社。
金子勇,1998,『高齢社会とあなた』NHK出版。
金子勇,2003,『都市の少子社会』東京大学出版会。
金子勇,2006a,『少子化する高齢社会』NHK出版。
金子勇,2006b,『社会調査から見た少子高齢社会』ミネルヴァ書房。
金子勇,2007,『格差不安時代のコミュニティ社会学』ミネルヴァ書房。
金子勇,2009,『社会分析』ミネルヴァ書房。
金子勇,2011,『コミュニティの創造的探求』新曜社。
金子勇編,2011,『高齢者の生活保障』放送大学教育振興会。
金子勇,2012,『高齢社会を考える』NHK社会福祉セミナー
4月-7月NHK出版:56-71。
金子勇,2013,『時代診断』の社会学』ミネルヴァ書房。

アクティブエイジング



少子高齢社会の推移



「積極的高齢社会」を考える(1)

ポーポワール 1970=1972 朝吹三吉訳『若い』
人文書院

- ①高齢者は実践ではなく、状態で定義される(上, p.252)。→実践への目覚め
- ②高齢者は消極的な態度に固まり、興味や好奇心に欠けている(上, p.269)→積極的好奇心
- ③有害である無気力を超え、無為をなくす活動性をもつ(上, p.313-317)

「積極的高齢社会」を考える(2)

- ④老いはもろもろの力を減少させ、情熱を衰えさせる(下, p.473)
- ⑤恵まれた老年をもつのは、多方面の関心事をもつ人である(下, p.535)→関心と情熱
- ⑥無為、倦怠、目的の欠如(下, pp542-543)
- ⑦老人は未来への足掛かりをもたないので、心が過去に向かい、心配に捉われる(下, p567)
- ⑧状態に応じた目的、企て、献身こそ(p.637)

平均世帯人員から見た小家族化

| 国勢調査 | 住民基本台帳 | 国民生活基礎調査 |
|--------------|--------------|--------------|
| 1990年(2.99人) | 1990年(2.98人) | 1989年(3.10人) |
| 1995年(2.82人) | 1995年(2.91人) | |
| 2000年(2.67人) | 2000年(2.66人) | 2001年(2.75人) |
| 2005年(2.55人) | 2005年(2.52人) | 2004年(2.72人) |
| | 2007年(2.46人) | 2007年(2.63人) |
| | 2008年(2.43人) | 2008年(2.63人) |
| | 2009年(2.40人) | 2009年(2.62人) |
| 2010年(2.42人) | 2010年(2.38人) | 2010年(2.59人) |
| | 2011年(2.36人) | |
| | 2012年(2.34人) | |

日本人口減少予測

| | |
|-------|----------|
| 2010年 | 1億2800万人 |
| 2050年 | 9300万人 |
| 2100年 | 4800万人 |
| 2150年 | 2500万人 |
| 2200年 | 1300万人 |
| 2300年 | 351万人 |
| 2400年 | 95万人 |
| 2500年 | 26万人 |

5歳幅の年少人口(2013年3月)

| 年齢階級(歳) | 総数 | 男 | 女 |
|---------|-------|-------|-------|
| 0~4 | 526 | 269 | 257 |
| 5~9 | 539 | 276 | 263 |
| 10~14 | 584 | 299 | 285 |
| 15~19 | 604 | 310 | 294 |
| 0~14 合計 | 1,649 | 844 | 805 |
| 0~19 合計 | 2,253 | 1,154 | 1,099 |

(出典)総務省統計局「人口推計」(平成25年3月)

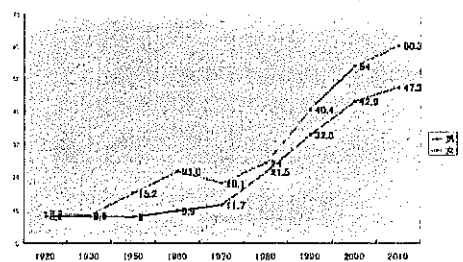
3歳幅の年少人口

| 年齢幅 | 合計数 |
|--------|-------|
| 0-2歳 | 316万人 |
| 3-5歳 | 317万人 |
| 6-8歳 | 320万人 |
| 9-11歳 | 340万人 |
| 12-14歳 | 355万人 |

現代日本の少子化

1. 2009年合計特殊出生率1.37
2011年合計特殊出生率1.39
2012年合計特殊出生率1.41
2. 2009年段階で人口4,000万人以上をもつ国は世界192カ国のうち29国を数えるが、日本の年少人口率13.1%はこの国々のなかで最下位である。これは世界新記録として位置づけられる。

未婚率の推移 (男30~34歳、女25~29歳)



あなたにとって一番大切と思うものはなんですか(%)

| | | | | | | | |
|----|------|------|------|------|------|------|------|
| | 1953 | 1963 | 1973 | 1983 | 1993 | 2003 | 2008 |
| 家族 | 19 | 13 | 18 | 31 | 42 | 45 | 46 |
| 生命 | | | | | | | |
| 健康 | | | | | | | |
| 自分 | 12 | 28 | 21 | 22 | 17 | 21 | 19 |
| 愛情 | 11 | 19 | 22 | 19 | 16 | 13 | 17 |

(出典) 統計数理研究所編『国民性の研究 第12次全国調査』2009年より

家族の動向

| 年次 | 核家族率 | 共働き率 | 単独率 | 高齢者独居世帯率 |
|------|------|------|------|----------|
| 1980 | 63.3 | 34.9 | 15.8 | 8.3 |
| 1985 | 62.5 | 35.9 | 17.3 | 9.5 |
| 1990 | 61.8 | 34.1 | 20.2 | 10.9 |
| 1995 | 58.7 | 30.7 | 25.6 | 12.1 |
| 2000 | 58.4 | 28.1 | 27.6 | 13.8 |
| 2005 | 57.9 | 26.6 | 29.5 | 15.1 |
| 2010 | 56.4 | 21.2 | 32.4 | 16.4 |

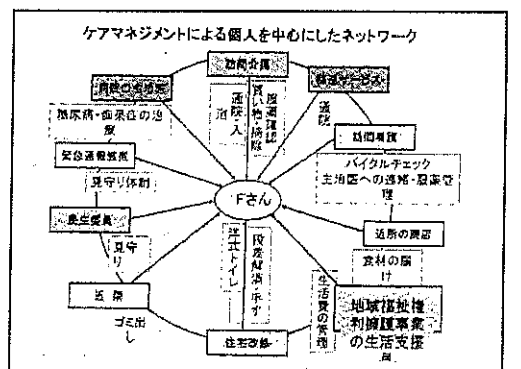
(注) すべて国勢調査結果。

- 日本の家族変動
1. 細分化された世帯増加による市場拡大(世帯ビジネスの機会増大)
 2. 少子化と小家族化による市場縮小
 3. 総人口減少と年少人口激減による市場縮小
 4. 家族主義から個人主義に伴うライフスタイルの多様性の増大
 5. 高齢者増加、要介護高齢者増加による市場拡大
 6. 介護を理由の退職が増加

- 福祉・医療(Being)
1. 生活保護被保護実人員(人口千人当たり2010年 28.97人、北海道は全国で2位、全国平均は15.24人、大阪府が32.03人で1位 47位は富山県3.00人)
 2. 生活保護医療扶助人員(人口千人当たり2010年 24.76人、北海道は全国で1位、全国平均は12.13人、大阪府が24.34人で2位 47位は富山県2.41人)
 3. 後期高齢者一人当たり医療費(2010年 1,070,441円で北海道は第3位、1位は福岡県1,146,623円、平均は904,795円 47位は岩手県730,269円)

生活保護率(Being)

| | |
|---------------|---------------|
| 1. 釧路市 53.2% | 8. 赤平市 36.8% |
| 2. 函館市 44.6% | 9. 札幌市 34.3% |
| 3. 三笠市 44.6% | 10. 美瑛市 31.4% |
| 4. 歌志内市 43.0% | |
| 5. 小樽市 40.9% | 生活保護率 |
| 6. 旭川市 37.7% | 人口千人当り受給者 |
| 7. 室蘭市 37.5% | (単位 %) |



- 高齢社会の政策課題
- ①地域介護サービス供給の公平さの実現
 - ②家族介護者への支援
 - ③介護サービス提供者の労働条件の向上
 - ④レギュラーワーク・ケア・ライフバランス政策
 - ⑤地域の特性を活かしたサービス提供、国民の負担による財源確保、介護者、ケアマネジャー、ヘルパーの労働環境の向上
 - ⑥高齢者の生きがい対策

- 高齢者の生きがい
- ①高齢者の生きがい活動による健康状態の改善は、直接的に医療費の軽減につながる。
 - ②生きがい活動は精神面での充実をもたらす。
 - ③生きがい活動参加者は、不参加者に比べて日常的な疾病予防・健康管理に対する意識が高い。

- 高齢者の生活保障
1. 2011年4月から放送大学で講義開始
 2. 2014年まで年に2回放送(4月から15回、10月から15回)
 3. テキストは金子勇編『高齢者の生活保障』放送大学教育振興会、2400円
 4. 2013年10月2日～2014年1月7日 まで 毎週火曜日16時～16時45分に放送

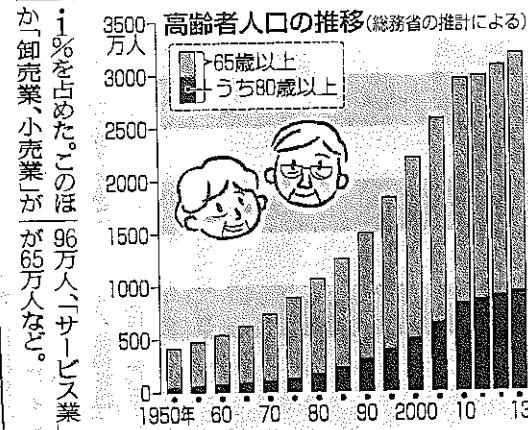
65歳以上4人に1人

過去最高3186万人

総務省推計

「敬老の日」に合わせて総務省が15日発表した人口推計によると、2013年の65歳以上の高齢者は前年に比べ112万人増の3186万人、総人口に占める割合は0.9増の25.0%で、いずれも過去最高を更新した。第1次ベビーブームに生まれた団塊世代が続々と65歳に達しているため、4人に1人が高齢者となった。

よると、12年の65歳以上の就業者は595万人、15歳以上の全就業者に占める割合は9.5%で、いずれも過去最高だった。65歳以上の人口に占める就業者の割合は、農業の全就業者の45%



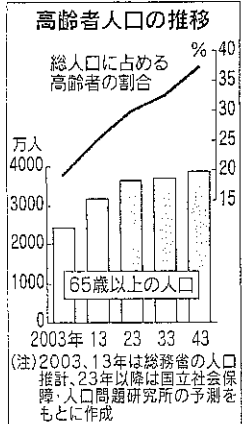
国立社会保障・人口問題研究所は今後高齢者の増加傾向が続き、2035年には3人に1人の割合となると予想している。働き口の確保や増え続ける社会保障費などへの対応が急がれる。

推計は10年の国勢調査を基に、その後の出生や死亡数を今年15日時点で反映させた。65歳以上の男性は1369万人で女性人口の22.1%、女性は1818万人で女性人口の27.8%を占めた。年齢層別では、70歳以上は総人口の18.2%の2317万人、75歳以上は12.3%の1560万人、80歳以上は7.3%の930万人だった。

65歳以上4人に1人

初の25% 社会構造の転換必要

総務省推計



総務省が敬老の日に合わせてまとめた15日時点の推計で、65歳以上の高齢者が過去最高の3186万人となり、初め人間入りし、4人に1人が高齢者という時代を迎えた。高齢化を前提にした街づくりなど社会の改革や現役世代に負担がかかる社会保障の見直しが必要となる。

今年15日時点の高齢者人口は1年前より112万人多い3186万人だった。男女別では男性が1369万人、女性が1818万人。75歳以上の後期高齢者は1560万人と43万人増えた。総人口は1億2726万人と24万人減ったため、高齢化がいっそう進んだ。高齢者の割合は0.93増の25.0%となり、初めて25%を超えた。今年8月時点の人口推計でも高齢者の割合は24.92%にとどまっていた。約700万人いる団塊世代が老年期にさしかかり、高齢者人口の増加ペースが速まった。14年まで大幅な増加が続く。

65歳以上「4人に1人」

総務省が「敬老の日」に合わせて行った人口推計で、65歳以上の高齢者人口が15日時点で3186万人となり、総人口に占める割合が初めて25%に達したことがわかった。4人に1人が高齢者となる計算だ。同省によると、第1次ベビーブームに当たる1948年生まれの人が65歳になったのが要因という。

男女別に見ると男性が1369万人、女性が1818万人。年齢別では70歳以上が2317万人、75歳以上が1560万人、80歳以上が930万人だった。国立社会保障・人口問題研究所の推計では、高齢者の割合は35年に38.4%となり、総人口の3人に1人が高齢者になる見込みだ。

「敬老の日」に合わせ、所定の通りはしを整理するなどの準備を各自治体は進めている。自治体は国民健康保険の増徴を市町村から都道府県に移す平均年収の低い企業の医療保険料が増す「総務省調り」全国導入の導入を1年以上の所定のある人の自己負担を上げ、ならを盛り込んだ。

提言を踏まえた各法案は来月以降、順次法制化される見通しだ。だが、国民生活と労務法の改革は、新たな負担を求められる層の区別が考慮される。

報告書は「社会保障制度の成功が高齢化をもちに制度の持続可能性を問われることになった」と指摘した。制度維持に向け、世代や階層、立場を超えて協力を求める必要がある。【藤田拓】

総務省は15日、「敬老の日」に合わせて65歳以上の高齢者人口の推計値（15日現在）を発表した。高齢者は前年より112万人増え3186万人となり、過去最高を更新した。総人口の1億2726万人に占める割合は25.0%と過去最高を記録し、4人に1人が高齢者となった。

男女別では男性1369万人、女性1818万人。年齢層別では、70歳以上が2317万人（総人口の18.2%）、75歳以上は1560万人（同12.3%）、80歳以上は930万人（同7.3%）で、いずれも過去最高だった。高齢者人口は2012年に3007.4万人と初めて3000万人を突破。1947〜49年の第1次ベビーブームに生まれ、団塊世代が65歳以上に達しているため、今後も増え続ける見通しだ。

一方、12年の高齢者の就業者数は前年より24万人増の595万人と過去最多で、15歳以上の総就業者数（6270万人）に占める割合も9.5%と過去最高となった。就業者は、65歳以上の男性が27.9%、女性

